

日 時：2011/11/25 18：00～19：30

対 象 町 名：門脇字浦屋敷以外

総参加者数：197名（参加地権者数：152名／221名）

## 1 開会

## 2 挨拶：基盤整備課長

## 3 説明事項（30分程度）

◇地区の復興計画について

◇まちづくりと住宅の建設に関わる事業等について

## 4 意見交換（60分程度）

- ・住居系ゾーンに家があるが修理をしており、現在、一般のアパートに住んでいる。数年後に災害公営住宅に入ることは可能か？  
⇒公営住宅の入居にはルールがあり、ゾーンにかかわらず、全壊・流失された方であれば応募資格を有しています。
- ・運河の整備計画についてはどのように考えているか？  
⇒運河については、県事業で3～5年での現況復旧を見込んでいます。
- ・雨が降ると道路が冠水する。一般道路（生活道路）について嵩上げが必要ではないか？  
⇒既存の住宅等もあるため、道路のみの嵩上げは難しいと考えています。区画整理の導入が可能であれば、それに合わせて公共施設の整備を行うことはできます。地盤沈下等に対して測量等を行いながら道路の高さ等を検討していきたいと考えています。  
⇒雨水等の排水対策については、エリア内の各所にポンプ施設を配置し対処していきたいと考えている。
- ・産業系ゾーンの居住者は、いつから新市街地で新しい住宅を建てることができるのか？  
⇒産業系ゾーンは、住宅の建設を避けるエリアとして設定しており、蛇田地区での新市街地の形成を検討しています。造成・整備には2年程度を要するため、H26以降に住宅建設が可能です。
- ・住居系ゾーンにも既存の工場などがある。住宅以外の建物はどうなるのか？用途地域はどうなるのか？  
⇒基本的には、既存の用途地域を継続することになります。工場などもそのまま残ることができます。

- ・産業系ゾーンでの居住は継続できないのか？  
⇒できないため、蛇田地区への移転を検討しています。従前地・建物については、買取・移転補償を行います。住宅を建てるために銀行からローンを借りた場合の支援等もあります。
- ・自分の家はどのように査定してもらえるのか？  
⇒建物の状況を見て、決めることとなります。高盛土道路と産業系ゾーンはどちらも同じ基準に基づいて補償を行います。
- ・蛇田の土地を借りた場合どれくらいの費用がかかるのか？  
⇒借地料がどれくらいになるのかは、まだ分からない状況です。
  
- ・工業港の県道をなぜ高盛土にできないのか。  
⇒今回の津波を再現したシミュレーションによると、高盛土道路は現在検討している場所と高さでなければ、今回のような津波を防ぐことができません。
- ・防潮堤の高さが7.2mと設定されたのはなぜか。  
⇒国の中央防災会議では街を多重の防御で守る方向性が示され、管理者である宮城県が防潮堤は約7.2mを整備することとなりました。
- ・そのような計画はいつ頃完成するのか。  
⇒宮城県は3～5年程度で完成する計画です。高盛土道路は住民の皆さんの協力を得ながら、目標としてH27までに完成させたいと考えています。
  
- ・産業系ゾーンは何らかの優遇措置をとって企業を誘致すると思うが、農地を残すことや除塩等も行ってもらえるのか。  
⇒持ち帰って産業部と確認をとります。
  
- ・基盤整備課の担当だけで判断できないこともあるのに、説明会に市長が来てないのはおかしい。
- ・仮設は2年しか入れない状況で、何年も整備を行うようなスケジュールはおかしいのでは？  
⇒復興には時間がかかるため、仮設の入居期間については延長するよう、国に要望しています。
- ・土地の買取価格はどうなるのか？1万円とか2万円という話も聞いているが。  
⇒色々な噂が流れているが、惑わされないでほしい。3.11以前の土地価格で購入するように国に要望しています。(国の返事はない)
- ・リフォームしても移転することになるのであれば、リフォームしては駄目だと予め説明して欲しかった。  
⇒7月の説明会ではできる限り辛抱していただきたいと申し上げたが、その時点でははっきり説明できませんでした。大変申し訳ありません。

- ・ 高盛土道路の高さはどれくらいの高さとなるのか？  
⇒今の計画では標高5 mです。現地盤からは高いところで4 m程度になると思います。
- ・ (南浜の病院のように) 市の計画はフラフラしており、筋が通っていない。今回の事業説明会でもはっきりしたものが示されず、どうやって信用しろというのか。  
⇒市長の考えを我々も聞かされていないため、この場での説明はご勘弁いただきたい。
- ・ 今数えたら交差点が60か所以上ある。3.11にあれだけ渋滞したのに、スムーズな移動ができるわけがない。  
⇒高盛土道路は三陸道のようなイメージで、交差点がほとんどないような状態となり、ここで津波をなんとか抑えることで円滑な避難を図っていきます。加えて子ども達への防災教育や地区の防災体制も整えていきたいと考えていきます。
- ・ 高盛土道路だけで津波が防御できるわけがない。松島のように、防波堤も組み合わせた防御とするべきだ。  
⇒今回配布した図には描かれていないが、工業港の外側にも堤防を整備し、衝撃を少なくするように県も検討を進めています。
- ・ 津波が来たらポンプ場が動くわけがない。  
⇒そういった課題も認識しています。現時点では、電源方式のほかにバックアップとしてエンジン方式を用意するつもりです。石巻全体が地盤沈下している状況の中で、地区に降った雨をスムーズに流す仕組みも必要です。

以上